

○計画条件・計画概要（9件）

- ・中央道路が8mから10mに変更された理由を教えてください。
- ・中央区道について、廃道できないのか。廃道できれば、建物計画が大きく変わるはずだ。なぜ廃道ができないのか、理由を明確に示してほしい。
- ・これらの問題点の要因は、7万平米という大きすぎる床面積にあることは明白です。従って、検討の初期からあった世田谷総合支所を別の場所に置くという案が基本的な解決策になるので、これについて再検討することが必要です。また、それが実現できない場合でも、区道を廃止すれば当該部分の地下の利用が可能となり、地上部分の面積の負担を軽くすることにもつながるので、最低限区道の廃止を実現することを強く要望します。
- ・区道の廃道については、防災施設として地区計画に指定されているので、東京都との交渉が難しいとのことですが、耐用年数90年と説明されている本庁舎の建設に際し、交渉が難しいと言っている場合ではありません。このままでは日本でも最悪の部類に属する庁舎となる恐れがあります。そうならないよう、障害を取り除いて敷地中央の区道を廃道しなければなりません。それが区の担当職員の務めです。
- ・奥沢の端に住んでいます。電車だと武蔵小杉か目黒で乗り換えて、さらに2回乗り換え、バスは廃止になり、車でも1時間くらいかかります。渋谷か新宿に区役所があれば、区内のほとんどの人が電車で10分か15分でつけないかと思いますが、今の場所はとても大変です。
- ・デジタル社会になるのに、なぜ、このように大きい庁舎が必要なのか？民間では個別のテーブルを持たない社会が実現している。また、在宅勤務も増えている。
- ・そもそも区民参加プロジェクトとしてやればよかったのに真逆でした。佐藤総合設計は前川建築をしっかり残すでもなし理念を継承しつつ新たに建て直すのでもなしまことに中途半端で残念です。広場はずいぶん様変わりするでしょう。10階の議会スペースは後世失敗として残りそうです。緑についてはまやかしかありません。世田谷支所を三軒茶屋に移転しそのスペースをつかったりとかすれば住民にとっても区にとってもウインウインになるはずです。阻害因子が多いのかもしれませんが困難であってもやる価値があることです。
- ・階高が低いため「2～4」の問題が発生しています。一般的な階高が取れるよう、制約を解決すべきと考えます。原因は敷地中央の区道により高さ制限が生じているためと思われます。区道を廃道することで少なくとも「2～4」の問題の多くが解決します。
- ・現庁舎の最大の問題点は立地である。災害時の司令塔となるべき庁舎が住宅密集地に囲まれている。この点で世田谷区は都の区市町村の中でも特異だとさえ言える。東京都都市整備局による地域危険度マップでは、現庁舎付近の危険度はトップレベルに高いわけではない。しかしこのマップはいわゆる山の手地域の評価が全体に甘い。この地域の住民のプライドの高さを配慮して、正直な評価を避けたのではと思う。しかし現庁舎付近は補助154号の一部開通に半世紀以上かかるなど区画整理が難航している。昭和復興期の面影を残す商店街が存続し、その街並みを愛する強力な抵抗勢力がいる。若林は都内有数の住宅密集地であろう。

住宅密集地は首都直下地震で想定される同時多発火災が大火に移行しやすいことに加えて、2016年の糸魚川市大規模火災のように、単発の火災に強風が加わるだけで大火になる危険も高い。現庁舎の周囲の道路は10メートル程度の幅員しかなく、ケヤキ並木も延焼を防ぐほどの数がない。現庁舎が火の海に囲まれ孤立する、さらには区庁舎自体に延焼し、区長や区職員の命にかかわる最悪の事態もありうるのではないか。

まず立地そのものが検討されねばならない。区内では都立高校が統廃合されたり、キャロットタワーが建つなど、区庁舎機能移転に使えるような物件取得のチャンスがあるにはあったが、そのような話は出てこなかった。現庁舎が大規模火災に対し非常に脆弱だという意識を区が持ち、区民にも持ってもらう努力が必要だと思う。

○設計コンセプト（13件）

- ・第1庁舎・第2庁舎・区民会館は前川國男の建築であり、文化的な価値が高い。可能な限り残してほしいと考えている。第1庁舎1階のロビーは、大沢昌助氏のレリーフや吹抜けとともに、その空間思想がすばらしい。ぜひその部分を保存改修し、それ以外を改築するなど、設計変更をしてほしい。
- ・なぜ区民会館ホールの折板構造やモダニズム建築を保存するか理解できるように、基本設計案に前川建築の理念を記載すべきだと思う。大沢昌助氏についても、記載してほしい。
- ・区民説明会の最後に「当時のヒューマンスケールと今のヒューマンスケールは違う。我々は我々のヒューマンスケールでやっていく」との主旨の発言をしていたが、この発言は建築保存の全否定に等しい。当時の時代背景や建築技術を最大限尊重した上で保存部分を中心に後の建築家たちが設計し再生するのが、21世紀の建築保存の潮流なのに、20世紀的経済至上主義の考えに落胆しました。「前川メモリアルスペース」的なものを設けるようなことを言っていましたが、建築は区民も入れた形で具体化の方向がないと納得しがたいです。区民会館ホワイエ部分の建築デザインをどこまで前川設計事務所が関わられて再生されるかで設計事務所（佐藤総合計画）の保存に関する考えが評価されると思います。もう少し現区民会館・区庁舎への敬意が表れた基本設計になることを期待しています。
- ・世田谷区の「アイコン」となり得るデザインに期待します。
- ・現在の第1庁舎1階にある大沢昌助氏の壁画は、プロポーザルでは継承するとなっていた。空間特質の継承という意味で重要だと考えるが、どのようになる計画か。
- ・確か、基本構想のときに、「空間特質の継承」という大きな理念があったと記憶していますが、今の基本設計案のどこに現庁舎の雰囲気伝える場所があるのでしょうか。ここのところも大変疑問に感じています。保坂区長は、中庭の形態を残したことがその部分とおっしゃっていましたが、地面があるだけでは、空間ではありません。3次元のレベルで残さないと、継承とは言えないと思います。計画案の広場はガラスと金属で構成された建築に囲まれて、さらにリングデッキによって、実面積より狭さを感じさせる。タイル張の床ではないでしょうか。
- ・「リングテラス」が何度も出ましたが、何について議論されているのか、わかりませんでした。帰宅後にインターネットで検索してみましたら区の計画だけが見つかり、この計画の際に区が新たに定義したカタカナのようです。区民が理解できない新しいカタカナ用語を使うことは適切ではありません。また、Ring Terraceという英語はありませんでした。「外国人に理解できないカタカナ用語」が批判されることがありますので、国際

化を目指す世田谷区が「リングテラス」を使うことは不適切です。「リング」は指輪を連想して「小さい丸い輪」をイメージします。「テラス」は「椅子を置いて、くつろぎながら下を見下ろす場」とのイメージとなります。これらのイメージから、「リングテラス」に違和感を持たれた発言が複数あったのではないかと推察されます。そこで、「周回路」と命名すれば、離れた建物間を用意に移動でき、非常時にも迅速に行動できるという使用目的を、区民が理解しやすいと思います。

- 基本設計（案）の文章および2月27日付け区のおしらせに、建築保存の部分、つまり「前川國男」「モダニズム建築」「折板構造」など建築史上の価値、歴史的評価の言葉が無く、後々区長や区議会議員、職員のみならず区民さえも保存の理由がわからなくなるのではと質問したが、区長は「基本構想に書いてある」と答えた。基本設計の段階で保存部分の具体性を示してほしい。当然大沢昌助のレリーフの件も明確に示すべきである。
- 第4回世田谷リング会議後に意見書にしたとおり、敷地内の三つの棟の有機的な結合を視覚的にも呼称の上でも表現したい・・・リングのプランはそのような思いを結実させたものかと思います。

an object in the shape of a circle with a large hole in the middle

OEDのWeb版Oxford Learner's Dictionariesに定義されているように、ringとは円形のものを指すのであり、円とは言うまでもなく「まるい・かどがない」かたちのことです（三省堂・大辞林）

「連携」の側面に注視し、リングならぬ「リンク (link)」ならどうかと言えば、鎖の一つひとつを指すことはあっても、その「まるさ」は当然の条件のようであり、rinkは、スケート場以外に使いません。

私は世田谷ポータランド都市文化交流協会（会長 涌井史郎氏）の設立発起人に名を連ねていますが、ポータランドの方々に、テラスをSetagaya Ringと説明するのはいささか憂鬱です。五角形の、それも円とはほど遠い形状のテラス部分をリングと呼ぶのは、即刻やめるべきです。

説明会における「災害時にテラス部分が役に立つ」という説明は、具体性に乏しく、私にはよく理解できませんでした。第4回リング会議における「階段部分がイベント時に恰好のステージになる」という旨の説明といい、率直に申し上げて、私には有用性を強調したいがための強引な解釈に聞こえました。第4回リング会議で、専門家委員を含む三名が、また今回の説明会でも三名がリングに反対する意見を述べ、今回の私を含む二名には、発言に対して拍手が起こった唯二つだけの事例でした。有用性のみならず、階段・スロープ部分を含めた安全面での危惧が少なからずあることを、軽視していただきたくありません。私は、テラスには反対で、廃止と植栽配置を強く望みます。テラスがなくても、行政・市民活動・議会、いずれにとっても何ら影響がないのは明白です。近代デザインの父、ウィリアム・モリスは、役に立つかどうかわからないものや心から美しいと思えないようなものを、家に置いてはいけないという、有名な警句で知られています。Usefulness=有用性は、モリスの美学の根底にあるものでした。テラスの有用性、すなわち本当に必要欠くべからざるものなのか、今一度、問うてみていただきたい。

審議会の評価、議会の承認、それらを経ているとはいえ、「過ちは即ち改むるに憚ること勿れ」の精神を発揮し、再検討の上、必然性がないとみとめられれば廃案とし、その分のコストを他に振り向けるのがワイズ・スペンディングというものではないのでしょうか。

- もう一つの階高への悪影響はリングデッキです。広場への災害対策車両等の進入用に、デッキ下有効高さを4.1m以上？（道路交通法？）と取っているため、1階の階高が不必要に高くなっています。第三回のリング会議でも区民から要望があったように、ユニバーサルデザインの「公平性」という基本概念から、リングデッキをつくるなら、スロープなどで誰でも同じ経路でデッキを利用できる必要があります。しかしながら、第4回のリング会議で作ることを約束したデッキへのスロープが基本設計案では無くなっていました。（元よりスロープが付けられる高さでは無い。）プロポーザル用の単なるキャッチコピーに過ぎないリングデッキは取りやめにすべきと考えます。
- 廃道にしないとと言いながらパース図は道路が大きくいかにも広場が広い感を与えるが、道路部分を除けば広場はほとんど無いに等しい。空間特質の継承の第一は明るい空の見える広場の存在ではなかったか。デッキから見おろされる（監視にも使える）、広場のあり方は民主主義を具現化しているとは到底思えない。リングデッキは害こそあれ、利点はほとんど無い。大きなスロープも場所をとりすぎるし。（こだわるのであれば）リングは1階に何らかの形でつくる（緑や水、ベンチ等）のが良いかと思えます。
- 区議会本会議では未だにすべてを建て替えろという議員もいる。それならばすべてを残せという議論もあってもいいではありませんか。方針に沿わない意見をあまりにも無視しすぎていると、リング会議を傍聴して思います。
- 現庁舎設計者の前川さんの功績を残す意見が根強くありましたが、区民会館にその功績を継承するスペースを作られたらいかがでしょうか。

○配置計画（2件）

- 10階建ての部分は低くして欲しい。10階建ては松陰神社から歩いてくると、ドーンとそびえ立ち、威圧的で、区民のための親しみやすい庁舎のイメージとは違う。他の敷地内の建物との関係のバランスも良くないので工夫して低くして欲しい。
- やむをえず現在の敷地で庁舎を再開発するとしよう。いま示されている新庁舎案は現庁舎の建物配置を基本的に踏襲している。前川構想の継承と言いながら建て替えのメリットが言われているが、限られた敷地で可能な限り延焼遮断帯を設けることを第一の優先順位にすべきだと思う。

庁舎の間を北東方向に通る区道を、補助154号とほぼ平行になる角度に移設し、庁舎の外側に追い出せば延焼遮断帯として使える。庁舎は1つの建物にまとめて、佐藤総合の案でいう「世田谷リング」の位置に配置する（北側は国士館大学で比較的安全なので、北側にずらしてもよい）。できる限り高層化し、並木のスペースを増やして森のようにする。森に囲まれた区庁舎の姿が区民の防災意識の向上を促す効果も見込める。

移動した区道の西側の敷地は、災害時の緊急性が比較的低い施設を配置するか、庁舎高層化を近隣住民に受け入れてもらうために緑の公園にするとか考えられる。

○動線計画（15件）

- ノバビル用地が駐輪場となるが、駐輪場に至る道路沿いはどのようになるのか。自転車が止まらずに道に入ってくるため非常に危険。新庁舎ではその道を通らずに庁舎内に入れる動線になると良い。
- 中央道路を道路法に合わせたとあったが、それなら中央道路は道路であり、広場と一体に

なっているのはおかしい。中央道路の境界には管理区分が明確になるような設えが必要ではないか。

- ・敷地西側に154号線に通り抜けられる動線を計画しているが、世田谷線からの動線を考えるとあまり利用されないのではないか。実際は南側の道路を利用するのではないか。
- ・現在の計画だと、東敷地のアプローチ空間のピロティは暗くなるのではないか。幅を広げて、光を取り入れた方がいいのでは？
- ・リング会議ではテラスそのものがいらぬという意見もあった。車いすの方がテラスへ上がるためには、外部エレベーター1つしかない。少なくとも2つは必要だ。スロープの提案もあったが、それがあれば、他の人とも一緒に上がって行けるのでよいと思うが、どうなったのか。
- ・庁舎外側の歩道や広場は暗くて危ない。街路灯の計画はどのようになっているのか。
- ・バス折り返し所を廃止し、バス停を設置するようだが、バスの方向転換はどのように行なうのか。
- ・タクシー乗り場は、タクシープールなどにして、屋根を設置することはできないか。
- ・来庁者用駐車場は80台程度とのことだが、現在混んでいるときには駐車場入場待ちでかなりの台数が並んでいる。駐車場はどれくらい増えるのか。154号線にはみ出すことはないのか。
- ・駐車場について
来庁者駐車場の出入り口の道路がせまいので、歩行者・自転車との事故が起こらないように、歩道を広くして欲しい。今はくぬぎ公園側を小学生も歩いているのであぶない。
- ・二本の地下道の必要性があるか不明。
- ・「バスベイ」を作られて、バスの折り返しのための方向転換をしないとの説明がありましたが、この案は非常に良いと思いました。その説明をお聞きしながら、「現在、進められている世田谷区52号線道路が完成した後に、渋谷からのバスルートが52号線に変更されることによって、かなりの時間短縮がされ、区役所・区民会館へのアクセスがよくなる。」と思ったりしました。
- ・第4回リング会議で設計責任者がリングテラスと地上をつなぐ昇降施設として、階段一体型のスロープについて、安全性等について課題があるので検証しているとの発言がありましたが、正直言って歓迎しない発言でした。デザイナーとしては興味ある対象だと思いますが、オブジェをつくるのとは違い、機能性等の総合的判断を行うべきです。私は広場に、そもそも大きな階段をつくることにも賛成できません。一定のデザイン性の持ったものまで否定してはなりません。優先すべきは、広場としての機能性です。したがって、広場に持ち込む施設はできるだけスリムにすべきだと思います。その意味で、私は昇降手段としては、地上とリングテラスを結ぶエレベーターが良いと思っています。シースルーの垢ぬけたデザインのELVを2~3基設置し、例えば太陽エネルギーで動くようにし、震災等緊急時も避難用として稼働できる体制を敷けばよいと思います。
その上で、西側のアプローチについては、建物まで距離もあるので、ここにうまくデザインしたスロープを設けてはどうかと思います。スロープを設けるといふより、心地よい坂道を整備するといった感覚でデザインし、誰もが歩きたくなる設えを演出すればいかがでしょう？
- ・来庁者用駐車場の配置について、東側アプローチ（松陰神社前駅側）からの対応台数が少

なく西棟側に偏り過ぎているように見える。来庁者用駐輪場3を可能な限り大きくするように希望する。また、各駐輪場に駐輪案内図を設置し駐輪場の案内を徹底するように当初から行った方がよいと考えます。

- ・区民説明会資料 P.11 「敷地へのメインアプローチ 西側ピロティイメージ図」は、平面図と異なります。平面図の階段は、上部と下部の幅員幅が異なります。イメージ図（透視図）は、上部と下部が同じ幅員となっています。配置計画で幅員を同じ幅に取ることの難しさは分かりますが、資料説明でも触れているように階段は避難階段でもあります。幅員が異なると階段途中で滞留を起こすこともあり、同じ幅員が良いと考えますが、下部の駐輪場の屋根（※以下、記載なし。）

○区民機能（11件）

- ・東棟10階に展望台が必要ではないか。
- ・中央のリングテラスの転落等に対する安全性は大丈夫なのか。リングテラスの検討の経緯、存在意義についても説明してほしい。
- ・食堂はレストランけやきを改修するのか。
- ・レストランが東棟1ヶ所では、西棟で従事する職員にとって使いづらい。西棟にもスペースを確保してほしい。
- ・夜間・休日に区民が利用できるスペースが区民交流室5箇所では、90万区民には少なすぎるのではないか。もう少し区民に開放すべきだと思うがどうか。また、議場を区民に開放する考えはあるのか。
- ・リングテラスはいらない。テラスから見下ろされるような広場は、広場とは言えない。
- ・広場機能の説明の中で、区民会館利用者の臨時駐車場として利用するとの説明があったが、区民会館利用がある場合は、常時、駐車場となるのか。
- ・自分としては、本来の利用より食事休憩が多いので、メニューの充実等、一層の快適利用にも期待しています。
- ・リング（5角形デッキ）は不要です。危険はあっても利点はほとんどありません。意見がまだまだ出ている状況です。是非ご検討を。
- ・第4回リング会議で西棟にも食堂があるべきではないかとの意見がありました。同感です。また、売店についても同様で西棟にも設けるべきではないかと思えます。東西で役割を変え、昼食等のための商品は共通として、一方は一般的なコンビニで、一方は文具等区職員向け商品を取りそろえるといったものではどうでしょうか。
東棟2階の食堂は、ユニバーサルデザインの観点から、お金を使わなくても利用できる部分を用意してほしいと思えます。できれば全体が無料休憩所で、周りで買った弁当や料理をそこで食べるといった方式がいいのではないかと思えます。サービスはいろんなことを考えればよいと思うのですが、無料でも利用できることが肝心です。
- ・「中央の三角形の広場について」
模型や図面で見るとガランとしていて何も無い広場に見えます。多くの人々が憩いたくなるような広場にしていきたい。ポーッと座っていられるような広場。必ずしもベンチを置かなくても、ちょっとした段差や縁石が欲しい。

○防災計画（6件）

- ・火山灰対策と説明にあったが、どのような想定をしているか？
- ・火山灰対策の説明があったが、東京で10cm程度火山灰が積もると、あらゆる機能が全停止し、何もできなくなる。対策をしたところで意味がないのでは？
- ・災害時の庁有車用のガソリンや軽油はどのように備蓄するのか。
- ・西棟と東棟の間の区道を廃止できないのはなぜかという質問に対し、区側は地域全体の防災計画に入っているので変えられないとの回答でしたが、いざ災害時に駐車場と想定している場所が、防災道路と機能するのでしょうか。
- ・近年頻発している大災害（大地震・大規模台風・大規模火災）を考えますと、その備え（住民の避難、帰宅困難者の対応など）が最も重要ですが、この観点についての説明で、最近の建造物の設計コンセプトが理解できました。そのため、口頭で説明されたことを、資料においても丁寧に記述していただけたら理解されやすいと思いました。
- ・本日説明会を聴講させていただいた。質問時間が短く、1人1度ということで追加質疑ができずこちらから意見を述べさせていただく。

庁舎の防災計画や防災への考えが甘すぎる。まず、なぜ説明会の話の最重要事項に建築家の継承について語られるのか。

区民が望むのは防災面の強化、防災拠点としての役所である。

私は東日本、中越、熊本、震災後にすべての地域にボランティアとして足を運んだ。

本日の説明で職員が述べていた過去の最大〇〇を想定といった説明が、ゲリラ豪雨や風でも使われていた。

職員は本当に被災地へ赴いて肌で感じて物を作っているのか？免震構造もいいでしょうが、そんな視点は震災を経験しなくても容易にたどり着ける。少なくとも被災地の生の現状を把握していれば過去の想定は何割り増しとかの発想にたどり着く。

過去が一番といった発想がそもそも震災を生で体験していない方々が設計したと言わざるを得ないものとなっている。

そんなことでは区民の安心できる防災拠点などちゃんちゃらおかしい！！だから過去最高の雨量に耐えられるとって平気で地下へ機械や電気の部屋を配置できる。

きちんと担当者は特にそのような建物の防災設備面に携わっている職員？担当？佐藤さん？の意識が低すぎるのではないか。

防災拠点を作るのであれば、過去最大の被災地である東日本へきちんと職員を派遣して防災の意識を高めて設計に当たってもらいたい。

そんな意識の低い職員の想定外ではなく、防災意識の高い職員の想定外を想定して計画に当たってほしい！

1ヶ月でも実際に被災地でボランティアをすれば、過去最大を想定などとは恥ずかしくて言葉に出せないはずだ。

○区民サービス・執務環境計画（9件）

- ・設計等は、細かいところまでよく考えられていると思う面も多々ありました。子どもにも障害者にも、妊娠している女性にも優しい庁舎を便利につくってほしいと思います。
- ・トイレの数は確保できているのか。地下は利用しにくく、1階にはほとんどない。1ヶ所あたりの数を増やして分散配置すべきだ。

- ・現在の職員食堂は段差があり、使いづらい。配膳方法も良くない。
- ・新庁舎は慣れない人も多いと思いますので、総合案内の方を入口付近におかれて下さるといいと思います。(最初のうちだけでも。)
- ・来庁者の窓口が機能していない部分が多い。窓口カウンターの前空きが狭く、廊下状の「通路」にカウンターが設置されている部分が多い。ローカウンターで来庁者に対応した場合、壁と相談者の後ろとの間のあき寸法が2 m程度で、人がすれ違うのが精一杯のスペースで、窓口ロビーとして成立していません。(記載台も近くに置けない、サインも見にくい) ハイカウンターで対応した場合も大差はないと思います。
- ・現在は区民窓口が第2庁舎・第3庁舎などに点在し、不便である。新庁舎では1ヶ所に集約するのか。
- ・多様な利用者に配慮するユニバーサルデザインを基本に据えている点が良いと思います。渋谷区の新庁舎では、障がい者福祉課、介護保険課、生活福祉課をまとめ、利用者は専用ブースに座ったまま、福祉関係の職員が入れ替わることで手続きや相談に対応する「ワンストップ対応サービス」を取り入れたとのことです(毎日新聞 1月8日・東京版)。世田谷区でもぜひ、利用者に窓口を回らせるのではなく、ワンストップサービスを取り入れ、同時に利用できるほかのサービスの情報提供もしてください。福祉は申請制のため、ニーズがあっても知らなければ利用できず、不利益を被る場合があります。区民本位の整備をお願いします。
- ・施設管理等委託業者の更衣室、休憩室などは、設置されると考えますが、住環境を考慮して誰もが働きやすい環境を整え計画を進めることが必要と考えます。
- ・先日説明会に参加させていただきました。
総合庁舎等整備は区民をはじめとして、多くの利用者、働く職員の方に、快適であることが最優先です。
以下意見です。
庁舎建設費用の制約はあるでしょうから、最低限サインデザインを創意工夫し、場所、窓口などをよりわかりやすくすることで、利用者の便に資してほしい。職員の負担軽減にもつながります。

○環境計画(20件)

- ・新庁舎敷地内に植えられる中高木の種類は? 図にはイチョウと描いてあるが、イチョウは落葉樹である。落葉樹を計画しているのであれば落ち葉対策等は考えているのか。西敷地の崖地に対する配慮はしているのか。
- ・「みどりの基本計画」で1万㎡を超える庁舎は道路沿いに8/10の緑化とするよう記載があるが、接道緑化率が取れていないのではないか。
- ・二子玉川のライズなど屋上緑化がなされた施設が区内にもあるが、周辺住民にあまり知られていなく利用することが少ない。西棟の屋上はすべて太陽光パネルにしたらどうか。
- ・今回の説明会では地上4mレベルの日影図が出ているが、地上部レベルの日影図を出してほしい。
- ・先程、中高層条例の説明会で地上レベルの日影図を出すといっていたが、説明会の開催時期として遅い。仮にそこで日影が基準を満たしていなかったらどうするのか。実施設計を変えられるのか。

- ・日影については建築基準法の規定を満たすだけでは困る。地上レベルでも検証し現時点で示されるべきである。
- ・風のシミュレーションは東や西からのピロティへの通り抜けを想定してシミュレーションすべきだ。
- ・風のシミュレーションは、南北方向だけでなく、東西方向もやるべきだ。ピロティ部分には相当の風が吹くと思われる。
- ・西側敷地への日影の説明があったが、周囲に崖地があるので、地盤レベルでの検証が必要ではないか。また、広場は地上レベルに落ちる日影で検証すべきだ。
- ・区には道路として使用されている土地もあり、みどり率33%を確保するのであれば、本来はその部分を除いて33%をめざすべきである。そうした考えに立てば、区役所がみどり率34%では物足りない。40～50%はめざすべきである。そのためには、壁面・屋上だけでなく、リングテラスを見直し、植栽に変えるべきだと考える。
- ・西棟西側の住居については、日影規制の現行基準はクリアしているとはいうものの、現行基準が平均地盤面を基準にしており、斜面地における下側の住居からすれば現行基準では、一定期間一日中ほとんど日照が得られない状態となります。

このような状態を容認することは実質的な日照権侵害になり、「環境と調和し、環境負荷の少ない持続可能な庁舎」を基本方針として謳う公共建築の考え方に反するものです。傾斜地を活かした設計を行い、西棟の階数を部分的に減らすことで、住民に優しく、「環境と調和し、環境負荷の少ない持続可能な庁舎」を実現することを、強く要望します。

- ・東西に抜けるピロティ（実態はトンネルのようなものですが）を持つ建物の形状から、基本設計案の東西方向について風向シミュレーションも合わせて行う必要があります。また、基本設計案では風害問題については何ら記載がありません。環境計画の中に風害問題についての対策を明示すべきと考えます。
- ・みどり率34%確保するとのことだが、1万㎡以上の敷地の接道部の緑被率は7/10以上のはずだが、中央道路がほとんど取れておらず、規定を満たしていないのではないかな。
- ・西棟2階部分の区民交流室前吹き抜け部分は、風の通り道となる。1階の吹き抜け部分には、2階への階段もあることから風の通り道が複合し通行に支障が出る恐れがある。その対応策として防風対策（スクリーン板の設置）を検討した方がよいと考える。風対策を検討されるよう提案する。
- ・みどり33は現状を考えると極めて厳しい目標です。思い切った支援制度等の導入や公園等の公的施設の新設によってもなお厳しい状況です。少なくとも、その目標達成に向けて大事になってくるのが「世論」です。区民の関心と達成への機運盛上りを具体化していくため、本庁舎の新調は大きなエポックとなります。本庁舎は区民等に対して範となすばかりか、牽引する内容が盛り込まれるべきです。その役割を果たすのに、みどり率が34%では説得力がありません。40%程度を実現してこそ範となりうると思います。是非とも、工夫していただきたい。

このことは、グリーンインフラとも表裏一体です。逆に言えば、自然災害等に強く、心や身体に優しい環境をつくることによって自ずとみどり率が上昇するといっていると思います。豪雨対策として、雨水処理を土中への浸透や木々草木等の保水力等を活用するのは当然として、生命の危険に晒される暑さに対しても、極めて有効なのがグリーンインフラです。アスファルトやコンクリート系の舗装はすべて取りやめる、くらいの決意が必要では

ないでしょうか？

- ・事務局長を務めている世田谷みどり33協働会議とみどり政策課の協働事業の一環として、過日シンポジウムが催されました。(持続可能なグリーンコミュニティを目指して一世田谷のグリーンインフラを考える2月7日於北沢タウンホール) その際の議論のひとつがグリーンインフラ(GI)の実装であり、平賀達也氏による「うめとびあ」の実装事例の紹介は、大きな反響を呼びました。

今回の説明会で、本庁舎等整備における、さまざまなGI実装の状況を知ることができました。もっとも、GIについては、さらなる実装が可能だと思います。

自然利用そのものなら、壁面緑化や地上部分の植栽配置を増やし、みどりによる冷却作用を活用することはまだまだ可能なはずですし、自然由来の設備についても、主に地球温暖化「適応策」の観点から充実させ、災害時の備えとしていただきたい。たとえば「かまどベンチ」について言えば、私は区内団地で2月2日に「防災デイ2019」なるイベントが催された際、団地内で発生した廃材(古くなった生垣の竹材)を燃料として炊き出し実演を行いました。すでに何度も経験しており、その有用性を熟知しているつもりです。マンホールトイレは、下水管の破損リスクと、汚物を流すための水の確保(500人分に対して400リットル、といった水準だったと思う)が課題であり、疑問視する声もあるのを承知しています。しかし、すべてを携帯トイレに頼るよりは、はるかにリスク分散のメリットがあると思います。

本庁舎等整備は、うめとびあと同じ佐藤総合計画様が手がける事案であり、さまざまなノウハウの共有とビルトインが可能なのではないのでしょうか。担当部長より「さらなる検討をする」とのお答えをいただきましたが、ぜひ貪欲に追求していただきたく思います。

- ・みどり率について、説明会で申し上げた数値について、より正確に記します。

世田谷区による直近のH28年度調査では、以下の数値が報告されています。

道路面積=17.3% / みどり率=12.02%

全面積平均でみどり率33%を達成するにはこの道路部分の低いみどり率を補うため、道路以外の82.7%の土地部分で、みどり=37.39%を達成する必要があります。すなわち、34%では足りません。

もちろん、道路以外の土地には、公園緑地(100%)や農地(95.30%)等のみどり率の高い土地があり、そこまでのみどり率は必要ない、と考える方もおられるかもしれませんが、それではみどり率向上が絶望的に見込めない狭小住宅などの不足を補えません。その結果が、現状のみどり率=25.18%という数字に表れています。

区立の学校と公共施設は、区立以外の私立・公立のケースと比べて、現状ではいずれも大きく劣るみどり率しか確保できていません。区立の公共施設の中の公共施設たる本件において、大幅なみどり率の向上を図り、「世田谷みどり33」実現への気概と矜持を示すことは、行政の使命ではないでしょうか？

<新たな尺度「グリーンインフラ率」の導入を！>

第4回世田谷リング会議後に提出した意見書にしたための試案に、再度言及させていただきます。

緑被率・・・ある区域における緑被(樹木・竹林・草地・屋上緑地・農地)の締める面積割合

みどり率・・・緑被+水面+公園内の緑被・水面以外の部分の土地の占める面積割合

グリーンインフラ率・・・みどり+グリーンインフラ面の占める面積割合

グリーンインフラ面＝遮熱や透水性舗装、緑溝などを備えた道路・駐車場、太陽光パネル、マンホールトイレなどのグリーンインフラと建物の壁面緑化被覆部分
すでに都市化が進行し、今後も人口流出が長期にわたって続くことが予測される世田谷区で、みどり率を8ポイントも増やすことは至難です。

緩和策を施し、準自然面とみなすことが可能な面積

対応策を施し、同上または災害対策に資する設備の実装面積

壁面緑化の垂直面の被覆面積（草地を縦にしたと考える）

これらをグリーンインフラ面として、その面積を従来のみどり率の分子に加えてグリーンインフラ率とする。「みどり (greenery)」をこのように再定義して、事実上の緑化推進を多面的に展開すること以外に、みどり率の大幅な向上は不可能だと思います。

これをまやかしたというなら、現状の<公園内の緑被・水面以外の部分>をみどりとみなすみどり率の考えの方が、はるかに欺瞞性は高い。これによって、公園は現状76.80%の緑被率であるにもかかわらず、みどり率=100%を達成しているのですから。

このようにグリーンインフラにこだわるのは、地球温暖化の危機を、ゆめゆめ軽視すべきではないと考えるからです。説明会で、設計者より60年前の竣工時、コンクリート打ち放しの建築が当時の一般市民の感覚と乖離があったことが想像に難くない旨の発言がありました。100%同意します。その上で、この発言こそ、過去・現在よりも、未来を見据えて考えるべきことの証左であることを指摘したく思います。

60年後、残念ながら地球温暖化はさらに進んでいるでしょう。それよりはるか以前、30年後の2050年には、我が国の総人口は9,515万人となり約3,300万人(25.5%)減少する一方、高齢化率は20%から40%にまで上昇しています。さしもの世田谷区といえども人口減少に転じ、少子高齢化社会のさまざまな問題に直面しているに違いありません。そのとき、地球温暖化対策にあたふたしているのか、それとも30年前の先見の明によって、ある程度そちらの問題には余裕をもって取り組むことができているのか。後者の道を選ぶべきは、火を見るよりも明らかです。

ぜひ、現状の計画のもとで結構ですから、グリーンインフラ率がいかほどのものになるか、試算してみてください。また、広場をグリーンインフラ化することで、どこまで上昇するかも合わせて試算してください。その数字を目の当たりにすれば、GI実装への意欲にスイッチが入るはずですよ。2度目のお願いです。どうぞよろしく願いいたします。

- ・緑化計画について、基本設計案によればみどり率は34%を確保するとしていますが、「みどり33」の実現を図ることが非常に困難と認められる現状において、「みどり33」を政策目標とする区の本庁舎が、屋上緑化を多用し、言い訳程度に34%を確保すれば良いという姿勢は、行政に対する不信感を招くものでしかありません。せめて40%程度のみどり率を確保して民間建築業者に対してモデルを示すことが必要と考えます。

また、接道緑化について、みどりの基本条例第29条別表第8で7/10あるいは8/10と定められていますが、基本設計案では緩和的な手法を使って規制を逃れようとしているように見受けられます。敷地内区道を廃道することで、より柔軟な緑化計画を行うようにすべきと考えます。

- ・東にもっと緑のあふれる庁舎になると良い。
- ・屋上緑化の日常メンテナンスの出入り口は、考えられていると思うが図面上に記載されて

おりませんでした。

○平面計画（4件）

- ・執務空間を地下に配置すれば建物のボリューム感を減らせるのではないか。
- ・各階に分散配置されている縦ダクトスペースの面積は、合計3000平米以上とと思われますが、一般的なオフィスではこのようなシステムは、採用しないのではないかと考えられます。(セットバックした外壁を這い上がってくる、あるいは、事務室に島のよう存在する) また、空洞であるダクトスペースも床面積に含まれているとされますので、工事費から推定すると17億円程度の無駄遣い?になります。これらの無駄は階高の制約から発生していると思われます。階高の制約を解決し、無駄のない一般的なシステムを採用すべきと考えます。
- ・東西棟ともに外光が入りにくいことから、省エネ建築としては極めて不十分だと思われます。執務室からの眺望も悪く、閉鎖的な印象の建物となっています。(内部模型をつくり検討してください)「2」で述べた広大なダクトスペースが外壁側に配置されているため、開口部が限定されてしまっています。さらには西棟はコアが中庭側に取りられているため一層状況を悪くしています。ダクトスペースとコアの位置を変更し、まともな執務空間を確保すべきと考えます。
- ・廃棄文書のリサイクルが行われていると考えますが、分別ストックヤードは、どこに配置されていますか。

○立面・断面計画（1件）

- ・今の時代の庁舎としては考えられないほど天井が低い。(すなわち各階の高さ(階高)が低い) 基本設計案説明会資料によると、天井は「梁下2.5m以上」とありますが、住宅の標準的な天井高が2.4mであることを考えると、広大なオープンフロアとしては考えられない低さになっています。(天井を張らないと言う話もあるが、基本設計案の断面図は天井があるような表現となっている。)「2」と同じく、階高の制約を解決し、一般的なオフィス天井(H=2.7m程度)とすべきと考えます。

○世田谷区民会館整備計画（17件）

- ・区民会館ホール入口は1つの扉しかない。光や外部の音の侵入を防ぐためにも二重扉にすべきと考えるが、どうか。
- ・練習室の大きさが小さいのではないか。リハーサルをやるのであれば、ホール舞台よりも多少は大きく、最低でも同じ大きさが必要ではないか。
- ・区民会館ホワイエの内観パースが掲載されているが、設計に前川建築事務所は関わっているのか。
- ・区民会館のエントランスホールが南側にもあるが、半地下にあるということか。
- ・エントランスホールには区民会館ホール利用中も出入りできるようだが、有料の催しの場合、2階のホワイエから入れてしまうのか。2ヶ所で入口管理が必要になるのか。
- ・区民会館ホール入口はやはり二重扉が良い。
- ・練習室はリハーサル室としても使うので、同じ大きさか、少し広くないと意味がないと思います。

- ・区民会館ホール会場への進入口が1枚扉であり、しかも扉の手前が階段となっている現状計画を会場中間よりの2枚扉進入口として欲しい。1枚扉の開閉時には、廊下の照明が会場内に差し込んできて落ちついた環境が確保出来ない。3月8日の国士館大吹奏楽部スプリングコンサートの際、廊下の非常口灯の明かりが会場内に入って雰囲気をつぶしてしまっていた。会場中間部より2枚扉での進入を是非設計して欲しい。
- ・観客（聴衆）は若者・健常者に限られてはならず、当然子どもさんから高齢者が対象でありながら、客席から退出する際に扉の外90°方向転換をして、階段を下りなければならない構造は、安全上大きな問題となる。
- ・現在のホワイエ→会場への通路幅は約4m程度であり、ステージ前列への進入口へ行く通路幅を確保すると階段幅は2mが最大幅であり、退出時のトラブルの原因となることが予想される。
- ・エントランスホールには、北側のピロティ、東側の道路側、南側（池のある）から入ることが出来ます。とても便利だと思いますが、催し物の主催者から考えるとどこで来場者（お客様）の受付をしたら良いのでしょうか。

地下（練習室のあるホワイエ）からもエレベーターで直接2階に上がることも出来ます。

1階のエントランスホールからも2階に上がる事が出来ます。

入場者のチェック（チケットの回収等）のための受付を複数箇所設けなくてはならないのではないのでしょうか。

どのようなお考えなのかお聞かせください。（東側（道路側）の入り口は取り止めてもよいのでは）

- ・区の試算では改修でも建て替えても大してコストが変わらないので、改修にこだわらなくていいと思うし、新築するなら、たとえば梅丘図書館を建て替えて区民会館と合体すれば、小田急の駅に近く集客上有利になる。羽根木公園の緑が減るが、区役所の緑を増やせば、わりと近所なので納得してもらえないのではないか。

改修案として佐藤総合の案は優れていると思う。とくに軽量化の方針がいい。1990年代以後の公共ホールは音響オタクな方向でコストをかけ過ぎていた。その結果、天井が重くて耐震性が不利になり、段々畑のようなレイアウトや高層階配置など、避難計画もバリアフリーも無理があるホールが量産された。区民会館の低コスト改修が一石を投じることになればと思う。

- ・区民会館のホール（客席）へは、階段を登った箇所にある扉一枚を通る設計となっているが、安全面と遮音性に問題がある。

扉の前に階段があり、しかも進入方向に対して真正面ではなく90度向きを変えて進入する形状となっている。入場の際には時間的な余裕（時間差）があるのでさほど問題はないが、退場時には一斉に聴衆が二箇所の出入り口を通り、尚且つ階段を降りなければならないことから安全上大いに問題がある。

遮音性に関しても、リング会議でサウンドロックの考えを説明していたが、外部（広場方向）からの騒音に対しては壁1枚であり期待が薄いのではないかと？さらに、ホール外通路の照明が扉の開閉時にその都度ホール内に及ぶこととなり、客席の雰囲気を壊す結果となることが明白である。

ホール中ほどに階段及び二重扉を持った進入口を二箇所設け、遮音・光漏れ及び安全性に万全な設計に変更を望むものである。

- ・ステージ裏の小楽屋近辺に給湯室を作ってください。
- ・大楽屋で直前の声出しができるようにピアノ(アップライト)を入れてください。
- ・スタッフ室の広さがわかりませんが、給湯、流しの施設を設けてください。(他の場所でも良いですが、このフロアに設けてください)
- ・2階の大楽屋で、音楽会の前に事前の声出しができるようにピアノ(アップライトが良い)を入れてください。

○構造計画（6件）

- ・区民会館の既存建物と新たにつくられる建物の中にエキスパンションジョイントが計画されているが、安全面、意匠面でどのように考えているのか。前川建築の継承ができるのか。エキスパンションにぶつかって怪我をする可能性はないのか。
- ・建物は免震構造だが、リングテラスはどのような構造で接続させることを計画しているのか。
- ・免震建物とデッキは地震の際の揺れ方が異なるはずだが、つながりをどのように処理するのか。また、地下通路も接合部をどのように処理するのか。
- ・A3版の基本設計（案）の中の15Pと30Pに記載されている図で、区民会館ホールの建物（折板構造の）東棟との離れた寸法が大きく食い違っている。
空間特質の継承という方針からすれば、15Pの図程度の離れをとることが最低限の配慮と考えているが、実際の計画はどちらで考えているか、御回答ください。
- ・本庁舎の免震構造の選択について、上部構造（鉄骨ラーメン構造）の構造特性等を考慮するとその優位性について些か疑問があります。想定する地震動特性や地盤特性等の不確実性に対する冗長性確保の観点も含めて、耐震構造、特に制震構造との比較における評価結果の詳細を開示されたい。
- ・構造計画について、説明会会場でも質問が出されていたが、リングテラスと免震構造の庁舎との接合部について「実例に基づき安全設計する」旨説明があった。リング設置の有意性が説明書に記載されている。その為には地震時において損傷が出ないことが前提である。また、東棟と区民会館ホールの接合部も同様である。しかし残念ながらこの様な接合部位は、致命的な損傷は避けられても軽微な損傷は避けられないと考える。実施設計図説明会資料でディテールの提示をお願いします。

○電気設備計画・機械設備計画（2件）

- ・換気設備について、以前提案した中間期の換気について自然換気が記載されており安心しました。実施設計の立面詳細図等で確認したいと考えます。ところで、以前提案した西棟保健所とそれ以外の室との換気について別系統にした方がよいと考える。
- ・機械室への設備機器類の搬入口について東棟はピロティーから階下へ搬入する事が図面上で推測できますが、西棟については、北側ドライエリアを使うことを考えているのですか。仮にそうであるならば、クレーン車両の寄りつきが厳しいように思われます。地下の通路を使うことも考えられますが、マシンハッチは、二箇所あった方がよいと考えます。

○建設計画（2件）

- ・(庁舎を) 使いながら6年間も工事が出来るのか不安。仮庁舎を使いながら上手くやってほ

しい。ハンディキャップのある人も来るので心配である。

- ・ローリング計画で具体的な面積や移転場所等の具体的なデータを提示して欲しい。非常に難しいことは十分承知ではあるが、これがスムーズに出来なければ今回の計画は根本から崩れてしまう。

即ち、1期工事で完成する行政部門スペースは、東1期の4～6階の執務室及び会議室と、西1期の1～4階の執務スペースである。(当然来庁者の通路待合エリアは除く) 東1期の7～10階の議会棟は、設備・内装等の内容が全く異なることから仮の執務スペースとしてカウントすべきではない。

2期工事に先立って撤去する第一庁舎・第三庁舎・プレハブ庁舎で稼動している行政部門スペースが、1期工事完成の執務スペースに完全に収まるのかを、具体的な数値で押さえておく必要がある。

2期工事部が完成すれば、移転先は余裕をもって行えることは容易に推測できるので、問題はないだろう。

さらに、1期工事期間中は、区民会館西側及び北側(広場方向)と東側の駐輪場、及びプレハブ庁舎横の駐車場の北側の駐輪場は工事区域となり使用できない。この駐輪場をどこに仮移動させる考えなのか? 勿論、来庁者用駐車場も3期工事が完成するまでどこに確保する予定なのか明らかになっていない。

駐車場・駐輪場を含めた余裕のあるローリング計画を早急に明確にして区民に理解できるよう説明をすべきである。

○総事業費(8件)

- ・区はプロポーザル時にライフサイクルコスト削減の目標値を具体的に設定していたのか。
- ・新庁舎の管理費には、どのようなものが含まれているか具体的に教えてほしい。
- ・ライフサイクルコストについては、各項目にかかる具体的なコストも合わせて出してほしい。
- ・ライフサイクルコストを90年単位で比べているが、わかりづらい。ライフサイクルコストについて、標準建物との比較とはどのような設定で考えられているのか。ライフサイクルコストの金額は議決するのか?
- ・ライフサイクルコストについて詳細に出してほしい。議会でも議論されていない。議員にも分かりやすく説明してほしい。
- ・総事業費430億円について、費用対効果もきちんと検証しているのか。すべてを新築した場合、コストが下がるということはないのか。
- ・階高を低くしたことにより、構造材・仕上げ材・外部建具等億単位の大幅なコストダウンになりますが、予算にまったく反映されていません。建設単価にどのように影響しているのか、明らかにされたい。
- ・いつまでに区役所の整備をやらなければならないのか。総事業費が20億円も上がっている。地方には、20億円の庁舎整備でも考え直しているところがある。ヒューマンスケールにあった計画であってほしい。

○全体スケジュール(2件)

- ・区役所で行なわれているイベントは、工事期間中はどうなるのか。代替方法をとるのか。

検討中かもしれないが、教えてほしい。

- ・計画を急がず、少し待ってみる

2023年まで都心に大型ビル80棟が建設され、東京ドーム68個分に相当する（日経1/27付）。供給過剰は確実と見られる。バブル崩壊に直面するであろう貸主の1つが東急グループである。渋谷駅大改造や相鉄直通など巨額の投資で沿線価値の維持に努めているが、都心回帰のトレンドは変わっていない。都心から離れた物件から空きが出てくると予想される。

二子玉川ライズには楽天が入居しているが、IT企業の社長は思いつきで引越す。品川から引越してきたのは、欧米では立って仕事するオフィスが流行だと聞いたからである。ライバル会社のソフトバンクがIoTオフィスを掲げて引越すを計画しているので、対抗心でまた引越すかもしれない。

つまり何年か待ってれば、区庁舎として申し分ない物件が転がり込んでくる確率がかなりある。実際に手に入れたのが大田区である。大田区役所の庁舎は桃源社の倒産後に住専から購入した。大田区の場合は住専救済だと批判されたが、相手が東急であれば、傾くのを放置すると地域共倒れなので、理解は得やすいであろう。

○その他（17件）

- ・庁舎の建替えに関する近隣説明会なのに参加者が少ない。広報の仕方はどうなっているのか。
- ・現庁舎は維持管理が行き届いておらず、建物の使い方に愛情が感じられない。新庁舎では維持管理をしっかり行ってほしい。
- ・初めて説明会に参加しました。説明が早く、追いつくのに必死でした。資料の〇ページ、A3資料の～などもう少し丁寧に見ている人が資料を開けているかを確認しながら進めてほしいと思いました。
- ・新庁舎が完成して、一般の方が利用される前に見学会をやってほしいです。
- ・こうして、多くの意見を聞いてものごとを進めている印象をつくっていますが、一問一答では、疑問の解決につながらないことが多いと感じました。
- ・色々な考え方・意見が聞け良かったが、質問がもう少し少なかった。物足りなかった。
- ・今回の説明会を最後に、決定になるのか？
- ・基本的方針から具体的な計画等の説明をいただき、大部分についてよく理解することができました。多くの質問に対する説明をお聞きしながら、種々の観点で配慮をされていることがわかり、納得いたしました。素晴らしい計画による本庁舎、区民会館の完成を楽しみにしております。
- ・本庁舎等整備は区民にとって重大事であるにもかかわらず、残念ながら、あまり関心を集めていません。昨年行われた区民意識調査では、具体的な内容を把握している人は1%余りとなっていることが象徴的です。広報の問題もあるかと思いますが、言葉遣いの問題があるのではないかと思います。言葉は正確性が必要ですが、時には多少の概念規定は甘くなっても趣旨を伝えるためにあえて一般用語を使うことがあり、それは許されることだと思います。ずばり、「建替え計画」ということば用いていけば、もう少し知っている区民が増えたのは間違いないと思います。確かに、当初の段階で全面保存再生も選択肢に入れるということから、建替えでは保存等を概念的に排除してしまうといった懸念があったこと

は間違いないと思います。

しかし、『庁舎は建替えます、保存も含めてです』というようにすればよかったのではないのでしょうか？基本設計には区民会館を保存再生することになっていきますので、『一部(あるいは区民会館)保存を含む本庁舎等の建替え計画』と呼ぶようにはできないのでしょうか？建替えという言葉がキーワードだと思います。

- ・世田谷区基本計画にあるように、『参加』と『協働』を具体的にいかに進めていくか、が重要な課題だと思います。現庁舎にはそのためのスペースが十分に用意されていないかもしれません。本庁舎等の建替え計画には、そのためのスペースが確保されていますし、『住民自治の確立』のモデル的取り組みと拠点づくりとして、区民参加が実現することを望みます。

(1) 区民交流スペース

東棟 1 階に設けられる区民交流スペースで試みてはいかがでしょうか？用途や機能を、具体的に運営方法を含んで検討していくことが大事だと思います。さまざまな活動団体も含め、自己主張等の調整も重要課題になってくると思います。1・2 度のワークショップだけではなく、意志ある区民をワークショップの中でピックアップして、専門家等との勉強・議論も含め行っていくような仕組みが望まれると思います。

(2) 議会スペース

東棟高層部に予定される議会機能も、開かれた議会を区民参加で検討していったらどうでしょうか？議員が区民の声を聞きながら、一緒になって施策や法制等を検討してくような在り方と仕組みやスペースが望まれます。

(3) ユニバーサルデザイン

サイン計画や色彩・素材に関しては実施設計の中で具体化していくものも多くあります。身体に不自由さを持つ方や車椅子利用者やベビーカー等を利用する方、等々の意見を具体的に聞き反映していくことが大事だと思います。個別に聞けば混乱しかねませんので、例えばユニバーサルデザイン委員会が調整役となって区民参加を実現する等が考えられればよいと思います。

- ・区民との議論が不十分と思われる。
実施設計着手前に、再度十分な時間を確保した議論の場が必要と考えます。尚、十分な議論を行う観点から現在の司会進行方法を見直す必要があると考えます。
- ・区民からの意見等をみんなで共有しておくことは、今後の議論を行う上で大変重要であると考えます。寄せられた全ての意見等について開示されたい。
- ・施設名称について、テラスに名称があって、施設全体を指し示す名称がないのは不思議であり不便です。一箇所しかない、同じ三字で縮約効果もないテラスをリングと呼ぶより、「本庁舎等」と座りの悪い言葉で語り続けることに、そろそろ終止符を打ちたいものです。
庁舎機能に加え、市民活動や議会など、複数の機能を併せもつ複合施設全体を指す名称としてふさわしいもの何か、私なりに考えてみました。

(場) 三つの建築物

(時) 過去・現在・未来の時間軸の内包

(人) 市民・議会・行政のステークホルダー三者

これらの三要素の三位一体という意味で「世田谷トリニティ」はどうか、というのが私の提案です。無論この私案は、単なる一個人の思いつきに過ぎず、もっといいアイデアは

募ればでてくることでしょう。

とりわけ二つ目の（時）の要素、すなわち区民会館のリノベーションによる「過去」の継承とともに、G I実装による「未来」への備えが、高いレベルで実現されることを願っております。

私は世田谷の理想の将来像は、2.7 シンポジウムのサブタイトルにも掲げた「グリーンコミュニティ」です。経済学者の故宇沢弘文は、主唱した「社会的共通資本」の三領域として、自然環境/インフラ（上下水道・エネルギー・道具 etc.）/制度資本（教育・医療・司法 etc.）を掲げました。これは、2.7 シンポジウムで取り上げた「エコロジカル・デモクラシー」（自然と社会の密接な相関関係から考察する都市デザイン論）とともに、グリーンコミュニティ実現の背骨となる思想だと思っております。詳述は控えますが、いずれの場合も「みどり」が社会のベースとなるべきことを語っている点を強調して、拙文も結びとします。

- ・実施設計で修正するには困難な問題点が多々あります。リングデッキと日常的に広場として使用する予定の敷地内の区道をやめることで、多くの問題が解決すると思われませんが、基本設計に多くの重大な問題があることが明白な以上、図面から空間を読める建築家と、設備などの専門家から構成される検討委員会を設置して、基本設計案をより良いものに作り上げていく必要があると思われます。実施設計期間の約17ヶ月のうち、4ヶ月程度を基本設計案の調整にあてるように強く要望します。
- ・何度か申し上げてきましたが、本庁の場所は災害対策に向いている場所ではありません。周囲の道路が狭すぎる。小、中学校等、耐震に満つる建物ではないことを知っている。職員より、区民重視だと思し、自助、共助等と言って庁舎だけ建替えるのはおかしい。
- ・リング会議は十分議論できる場になっていない。3 回目の多くの問題提起に対し、4 回目の収束のさせ方はあまりにひどすぎます。結論ありき感が大。
- ・設計案の8P 広報が出て、初めて庁舎のことが区民に知れ渡りました。おそらく初めて考えようと思った区民が多いと思います。そして同様に建設計画が発表され、もう間に合わないじゃんとかきらめる。国や都のやり方のように、十分使う人の意見が反映されないまま進められていることを危惧します。せめて、もう少し意見を聞いてください。

(本庁舎等整備以外に関するご意見等 4件)